

令和元年度第1回御嵩町総合教育会議

日時:令和元年6月3日 11:00～

場所:役場第2委員会室

出席者:

町長部局: 渡邊町長、寺本副町長、伊左次総務部長、須田総務防災課長、
日比野行政管財係長

教育委員会部局: 高木教育長、田中教育委員、細野教育委員、平井教育委員、中瓦教育委員、山田教育参事、広瀬指導主事、石原生涯学習課長、
刀根学校教育係長

事務局 時間となりましたので、令和元年度第1回御嵩町総合教育会議を開催いたします。始めに、町長よりご挨拶を申し上げます。

渡邊町長 みなさんこんにちは、今回は、令和となって初めての教育総合会議です。最近、子供が犠牲となった痛ましい事件が立て続けに発生しました。そういった事件を目の当たりにするたび、常々思うことは、家族の問題が影響しているのではないかという事です。高齢者による自動車事故では、家族の形態が変わったため、高齢者になっても交通手段を自分が持っていなければならないので起こってしまったのではないかなと思います。家族の形態でいえば私などは、親から家を継げと言われて有無もなくその道を歩んできました。向き不向きはわかりませんし、今では古臭い考えなのかもしれませんが、家族に言われて進んだ道も悪くはなかったのかなとも思います。今、学校では本来家庭が教えるべきことを教えるよう求められており、先生方も大変な状況だと思います。そういった中で御嵩町としての教育の在り方を議論していただきたいので、限られたお時間ではありますが、よろしくお願ひします。

事務局 それでは、本日の議題に移らせていただきます。総合教育会議の設置要綱に従い、以降の進行は町長にお願いいたします。

渡邊町長 要綱に従い、議長を務めさせていただきます。まず、次第の2 令和元年度文部科学省行政説明資料の説明について、事務局の説明を求めます。

高木教育長 では、青色の表紙の資料をご覧ください。5月9日に東京で説明会がありました。その内容についてご説明します。ページをめくっていただくと目次として、14点の項目が挙がっています。これが、今年度の重要な項目です。その中でも、「4 教育の情報化について」「9 特別支援教育の推進について」「12 地域と学校の連携・協働について」が特に重要と思いますので、今

後、御嵩町でどうするかについて議論いただきたいと思います。

まず、資料29ページからの「4 教育の情報化の推進について」ですが、新学習指導要領のポイントが挙げられており、その中で、小学校プログラミング教室の全面実施に向けた取り組みを進めるものとしています。実際に小学校プログラミング教育の手引きは2版まで版を進めています。今日は、少し具体的な内容を後ほど説明させます。

また、ICT 教育の環境整備のための地方税制措置も講じられるので、今後、財政部局と相談して推進に向けて取り組みたいと考えています。具体的には、学習者用コンピューターを3クラスに1クラス分程度、指導者用コンピューターを教師1人に1台配備する。統合型校務支援システムを配備する。ICT 支援員を4校に1人配置する。などが挙げられます。

次に資料71ページから「9 特別支援教育の推進について」です。特別支援教育に関する学習指導要領等の改訂について、「一人一人に応じた指導の充実」として、子供の障害の状態や特性等を十分考慮し、障害の特性等に応じた指導上の合理的配慮を充実するべく取り組むとされています。

特に発達障害等を抱える子供たちの学びを支えるという点で動いているのが高等学校等における通級による指導の制度化で、今年から東濃高校で2年生5名を対象に実施しています。これは、御嵩小の課外教室と同様のものですが、非常に評判が良いとのこと。

特別支援教室の充実の関係での予算で、国立特別支援教育総合研究所運営費交付金というものが予算化されていますが、この研究施設に広瀬指導主事を派遣して特別支援について研究を進める予定です。

最後に94ページから「12 地域と学校の連携・協働について」ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、学校運営協議会の設置が努力義務化になり、共和中を除き各学校に設置されています。さらに、地域学校協働活動という、学校運営協議会で定めた方針を具体的に行っていくよう考えています。これまでも、協議会に携わる地域の方々や教頭がコーディネーターとしていろいろな活動を行っていただいていますのであえて作る必要は感じていませんでしたが、ぜひ作ってほしいとの要請もありますので、町内何れかの学校で地域学校協働活動本部という組織を立ち上げることが出来ればと考えているところです。説明は以上です。

渡邊町長 ただいまの説明について、ご質問、ご意見はありますか。

平井委員 話が幅広く、意見することも難しいですが、学習指導要領の改正で英語教育や ICT 教育、プログラミング教育などがやっていかなければならない課題として取り上げられてきたという事だと思います。先の校長会でも、将来、子供たちが社会に出た時に AI に仕事を奪われてしまうといった話題も出まし

た。私は、今の子供たちが学校から社会に出たら浦島太郎のような状態で、状況についていけないようになっていないか、という心配もしています。そのためには、社会の進化に教育も適応していく必要があると思います。ただ、今これを学校の先生に丸投げしているわけではないと思いますが、過度の負担を与えているのではないかと想像します。そういったことから、先ほど説明のあったICT支援員などの設置やタブレット機器の設置などは積極的に進めていく必要があるのではないかと考えています。とはいえ、タブレット機器を全職員生徒分調達すると何千万の予算が必要となります。学習塾などではすでに実用化していることでもありますので、その効果や保護者との費用の分担など判断しつつ導入方法を考えて行けばどうかと思います。

渡邊町長 いろいろなご意見もあろうかと思いますが、他にはどうでしょう

細野委員 日本のIT産業は世界的に見て立ち遅れているように思います。特に韓国や中国の技術発展が目立ちますが、これらの国ではIT教育が進んでいるという事だと思います。日本でもIT教育に本腰を入れて取り組んでいく必要があると考えます。今の子供たちは、ゲームなどを楽しんでいるのでパソコンなどを扱うことに抵抗感を持っていないと思いますが、プログラミング等も習得できるような教育を進めていただきたい。

また、授業の方法についても、今後、教室から黒板がなくなり投影用のホワイトボードに代わっていくなど情勢の変化に適切に対応していけるようお願いしたい。

高木教育長 投影用ホワイトボードについては、簡易的に黒板の表面に被せる物を使うなど、適宜対応できていると思います。確かに、しっかりした物にすれば表示もはっきりするなど効果があると思います。

渡邊町長 文科省の方針ができれば、基本的に全国のどの学校も同程度の設備基準になっていくものだと考えています。最近、IT関係の整備に関して感じることは、経費がほぼ言値で非常に高価な額を支払っているが、どこまで本当に必要な経費なのか全容が見えにくい状況で苦慮しています。

とはいえ、今、学校でやらなくてはならないことは、高度な技能ではなくても身につけておくべき最低限の技能は教えておくことだと考えています。

では、次第の3「岐阜県教育振興基本計画」の説明を求めます。

高木教育長 岐阜県教育振興基本計画概要版の5ページ6ページをご覧ください、「ふるさと教育の充実」と「ICT環境の整備と利活用の推進」がこの計画の2大重点事項とのこと。ふるさと教育については、御嵩町ではすでに取り組んでいることですが岐阜県も本腰を入れて取り組んでいます。杉原千畝、各務原航空博物館、関ヶ原の3原のPRなど故郷の魅力を知る機会を

充実させていることをはじめ、県立高校でも、ふるさとの活性化のための課題解決に取り組んでいます。東濃実業では「ゆめいろ指体操」や「あゆっこのふりかけ」など実績も上げています。東濃高校でも、学校と地域を結びつける活動を実施しています。小中学校は平成11年から継続して取り組んでいるところですが、今年度は社会科副読本に中山道、願興寺、可児才蔵について、小学生にわかりやすいように資料を作りました。また、各学校ごとにふるさと教育として良いとおもう事項をまとめて公表することとしています。伏見小は広見線100周年の歴史、御嵩小は愚溪寺の歴史、上之郷小学校は中切古墳の歴史を取り上げて学習していくところです。

重点事項の2点目「ICT環境の整備と利活用の推進」については、広瀬指導主事より説明させたいと思います。

渡邊町長 では、続けて広瀬指導主事、説明してください。

広瀬指導主事 お配りした、資料の小学校プログラミング教育の手引き(第二版)11ページをご覧ください。小学校プログラミング教室のねらいは、3つあり、「プログラミング的思考を育むこと」「コンピューター等を上手に活用して身近な問題等を解決しようとする事」「各教科等での学びを確実にすること」が挙げられています。ですから、プログラミングができるようになること自体が目的ではなく、前述のねらいを達成するための手段としての利用するものである事を抑えておくことは重要です。

具体的な事例について、SKYMENU2018「プログラミング」のご紹介という冊子を資料としてお配りしました。これは、現在、御嵩町の学校で実際に利用しているシステムで、中をご覧くださいと具体的な事例が紹介されていますので、ご覧ください。

渡邊町長 では、ここまでの項目についてご質問やご意見はございますか。

細野委員 ふるさと教育に関連して、今度の大河ドラマで明智光秀が取り上げられることになっており、近隣でも光秀の関連事項を発掘しているようですが、御嵩町でも何かあるものでしょうか。少し話がずれますが、光秀や歴史ではなくても、関連する特産物など人が集まってくるようなものはあるでしょうか。

渡邊町長 教育のほか、観光にも力を入れて取り組んでいるところで、「みたけのええもん」など特産品として御嵩町が公認するような取り組みも行っているところです。情報を集めるのは当然取り組んでいます、これを外部にアピールする方法をどのようにするかに頭を悩ませています。万人に知ってもらうことを目指すのは大変難しいので、ニッチな部分を狙っていく方法も探っているところです。

光秀について言えば、この地域にはあまりゆかりのあるものはない、というのが現状です。

細野委員 何れにしても、何か脚光を浴びることがあれば、そこから子供たちが歴史に興味を持つきっかけになればありがたい。

田中委員 ふるさと教育については、東濃高校の事例などを拝見して、県内と比較して一歩進んでいると感じています。引き続き取り組みを続けていただきたいと思います。

一方、ICT教育については、御嵩町に限らず全国的に遅れているように思います。日常的にタブレット端末などに触れる機会が多い今の子供たちにとっては、機器の取り扱いなど基礎的な教育は、さほど重要ではないのではないかと思います。とはいえ、機器に触れる機会が少なければ、その次の興味につながる機会が失われることにもなりかねないので、必要な手当てをすることは重要だと思います。

渡邊町長 ふるさと教育でも、ICT教育でも教育は教え方により、その効果に非常に差が出るものだと思います。言語教育を例に挙げると、日本語は、親兄弟などから、文法も単語も分けなく教えられるような形で自然と身につけてきたものですが、私が受けた頃の英語教育は、文法から教えられるので、面白味を感じることが出来なかったように思います。子供たちが面白味を感じることができるように進めていきたいと考えています。

そのほかご意見はございますか。

中瓦委員 ICT教育については、今の子供は十分に接する機会があると思うので、よりよく伸ばしていく方向で考えて行ってほしいと思います。一つこれまでの説明の中で触れられていなかったことで、心配なのがマイナス面。ICT社会には危険な面もあるという事を教え、間違った方向に進まないようにすることが学校教育ではないかと思います。今回資料を拝見する限りでは、そのあたりを読み取れなかった点は残念でもっと取り組むべきだと思います。先ほどの説明の内容で授業が進んでいるようですので、その点は継続していただきたいです。今後町としてはどの程度まで進めることが出来るのですか。

渡邊町長 今、御嵩町に導入しているタブレットは、県の補助を貰いながら試験的に導入してきました。事業も県から御嵩町に派遣されていた職員が提案してくれたものをすぐに採用したもので、他と比べれば比較的進んでいるものと思っています。ICTのマイナス面の教育については、さらに取り組むべきところは多いと思います。性の低年齢化や薬物取引などは、ICTが絡んでくる問題も多いので、しっかり考えて行きたいと思います。

高木教育長 現在は、県のネットパトロールにより、各学校に関連する投稿などを取りまとめて各校に報告してもらえます。これを基に、速やかな指導を行うことが出来ている状況でもあります。とはいえ、よりしっかりと取り組んでいきたいと思いません。

細野委員 ネットやゲームに依存してしまう子供も多いようですので、しっかりとした指導が求められると思います。電車に乗っても、ほとんどの人がスマートフォンを見ている状況です。

渡邊町長 ICTが非常に身近になっているので、それに対する節度や倫理といったものを教え、納得するようにしていかなければならないという事だと思います。

今日の議題は大変難しい問題だと思いますが、今日を端緒にしっかりと、デメリットも考慮しながら進めていきたいと思っています。

本日のところは、これもちまして会議を終了したいと思います。

11:50 閉会